

1

1 全員

2 筆算

3 工具

4 庭

5 速球

6 口笛

2

1 A ミ

B レ

C ロ

2 I 三人そろ

2 II けれども

3 イ

4 (記述題)

5 さび

6 X・Z

7 のけもの

8 ア

9 I 英語力

II 英語が

3

1 え

2 I 起源

II ト た

3 1 イ  
2 エ  
3 ウ

4 トウ っ て

5 A エ

B ア

C ウ

6 ア

7 ア

8 肌の色

9 エ

2

4 料理を手伝ったり、手伝いながら料理を教わったりすること。

配点	
1・2	1・7・3 各2点×13 = 26点
2	4 6点
その他	各4点×17 = 68点
〈計〉 100点	

(同意可)

- 1 「貝」の下の部分は「貝」である。横棒の数を間違えないようにしよう。
- 2 「筆」の横棒の数に注意しよう。また、「たけかんむり」が続け字にならないように正確に書こう。
- 3 「工具」とは工作に使用する器具、道具のことである。「工」を「校」、「行」などにしないように気をつけよう。
- 4 「庭」の「壬」の部分に正確に書こう。
- 5 「速」のしんにょうを続け字にしないように注意しよう。また、「球」の「求」の部分も字形に気をつけよう。
- 6 「笛」の「たけかんむり」をうっかり「くさかんむり」としたり、「由」を「田」と書いたりしないように気をつけよう。

2

- 1 外来語は様々な文脈ぶんみゃくの中での使い方をおさえつつ、意味、イメージを身につけていこう。
- 2 I 「どのような習慣か」と考え、文脈をたどろう。——線①の前の部分で具体的に説明されていた。  
II 「：好きだったし、楽しかった」と過去形かこけいの書き方であることに注目すると、「今」のとらえ方は「昔」とは同じでないことが読み取れる。「もつともよくわかる一文」を答えることに注意しつつ、「おばあちゃん」と「父」との習慣に対する「窓香」の考えが書かれた部分をさがせばよい。
- 3 「ふさわしくないもの」を選ぶ。直後に「なんだか変わったたにおいがする」とあるが、これはものめずらしさからきたことばであり、「不快感」とは言えないだろう。
- 4 ——線③を含む一文を読み、昔の「窓香」が「おばあちゃん」と共にともおこなっていたことをまとめる。直前の「チーズを：」では不十分である。「料理を手伝うこと」と「教わること」の二点をふまえた答えを用意したい。
- 5 ——線④の直前、「少なくともわたしはそう思ってきたし、今もそう思っている」が大きな手がかりとなる。「おばあちゃん」が「窓香」の母代わりとなったのは、母親と離れて暮らす「窓香」のことを思いやったからであろう。
- 6 「窓香」の父が「X」にだまされる「Y」になる」と言った後、「パパ、それって、反対じゃなかった？ 猫がねずみにだまされて：」と「窓香」が言っているところが答えの決め手である。そのあとの「おばあちゃん」の発言は「窓香」のことばをうけて発せられたものなので、「遅れてきた」のは「猫」だとわかる。
- 7 「のけもの」とはこの場合「仲間はずれにされる人」を指すことばである。「小学生だったころ：いじめられていた」も答えのイメージを作る際に助けとなるだろう。「のけもの」を知らなかった場合、この機会に意味をおさえてほしい。
- 8 「中二」となった今は、小学生の時のように「のけもの」あつかいされないよう、「英語ができないふりをしている」のだが、まわりの目を気にして「できるだけ目立たないように生きている」現状は、とても新しいクラスに慣れているとは言えないだろう。かといって正直に父に伝えるわけにもいかず、ことばをにぎこしているのである。
- 9 I 「おばあちゃん」、「父」のことばをたどる。「ここより前」という指定があるので「語学力」は答えとして不適当ふてきとうである。  
II 「窓香」が「自信が持てず」、「目立たずに生きよう」と考えて、中学校の中でどのようにふるまっているのかを読み取る。

3

- 1 文章前半は「トウモロコシの起源の謎」について、後半は「マヤ文明とトウモロコシの関係性」について述べられていた。
- 2 I (1)にはトウモロコシとテオシントの関係を示す「起源と考えられている植物」がはいる。「謎の多い(2)の人々の：」から、(2)には「古代マヤ文明」がはいる。  
II 「トウモロコシは」、「宇宙から」、「やってきた」と正確に対応した部分をさがす。
- 3 (1)はトウモロコシについての説明のあと、「わかっているのはそれだけで、」あとは謎であるという流れから「ところがはいる。(2)は「栽培植物」の例として「イネ(とコムギ)」を挙げているので「たとえば」がはいる。(3)は「高度な都市文明」に加えて「宇宙の観測技術に優れ：」「マヤ暦を：」ということを説明しているので「しかも」がはいる。
- 4 ◎の「イネやムギとは異なり」が大きな手がかりとなる。トウモロコシの場合、「起源」となる植物がはっきりしていないことが——線②以降で説明されていた。「トウモロコシには、野生種やんせいしゆやトウモロコシに近い野生植物が見つかっていない」のである。
- 5 A「せんだんは双葉ふたばよりかんばし」とは、大成する人物は幼い時から人並みはずれてすぐれたところがあることのとたとえ。  
B「うりのつるになすびはならぬ」とは平凡な親から非凡な子は生まれにくいというたとえ。C「うどの大木柱おおいぎすゐにならぬ」とは、体ばかり大きいだけでなんの役にも立たないもののとたとえ。
- 6 「そもそも」とはこの場合、改めて説明を始めるときに使う表現である。——線③内の「不思議」という表現が何を指しているのか、その後トウモロコシについてどのような説明があったのかを考えよう。
- 7 ④は直前の言いかえになっている。次段落冒頭に「たとえば」とあることに注目しよう。トウモロコシの持つ「ずいぶん変わった性質」や、「トウモロコシのような特徴を持つ植物は他にない」ということが示された表現が答えとなる。
- 8 「本文中のことばを組み合わせて」という指定に注意しよう。ぬき出し問題ぬきだしもんだいと思いきまないようにしたい。「：肌の白いスペイン人が：」が大きな手がかりとなるだろう。トウモロコシの「粒の色」は様々であるのでそのトウモロコシから作られた人間の「肌の色」も様々である、と考えられていたのである。
- 9 なんとなく答えを選ばずに、必ず本文にもどって各選択肢の正誤を見極めよう。「コロンブス」が「作った」とは書かれていないのでアは誤り。トウモロコシの起源ははっきりしていないのでイは誤り。「マヤ文明」は「高度」と書かれているものの、「現代の文明」と比べて「はるかに発達していた」とは書かれていないのでウは誤りである。